

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0193600046 | | |
| 法人名 | 株式会社 彩寿 | | |
| 事業所名 | グループホーム彩寿 1階 | | |
| 所在地 | 苫小牧市桜木町2丁目2番20号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年2月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年7月28日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600046-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F | | |
| 訪問調査日 | 令和2年7月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせる様に、スタッフが楽しく仕事が出来る様子を目標に掲げ、会話や笑顔の絶えない家作りを目指しています。入居者様、スタッフが共に喜んだり、悲しんだり家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護師との連携により看取り介護も、積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園や小学校、ボランティアとの交流を通し、今後も地域との繋がりを大切にし、入居者様やご家族に安心と信頼をして頂ける様な家作りを目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム彩寿」は、桜の木が多くある町の静かな住宅街に立地する2ユニットの事業所である。建物内は地域交流室や空間を多目的に活用できる場所があるゆったりとした設えである。代表者は「利用者が生活の主体者」である事を重要事項説明書に明示し、2名の管理者それぞれがユニットを統括している。職員は利用者の願いや意向の把握に努め、援助計画に本人の望む生活像を示し課題解決や自立にむけた支援に取り組み効果を上げている。新型コロナウイルス感染症による自粛生活により控えている事は多々あるが、町内会や地域住民とのつき合いは良好で助け合う関係性を築いている。複数の幼稚園との相互交流、小学校での認知症キッズサポーター養成講座、鍵預かり事業では高齢独居宅への支援を行うなど事業所機能を地域へ還元している。行事的及び個別外出支援も優れており、本人の要望に対応可能な態勢を整えサポートしている。手作りバイキングや外食、出前寿司など季節の行事食も豊富に提供されている。開設時よりターミナルケアにも取り組み利用者のこれまでの生を尊びつつ家族の願いにも応える大切な支援となっている。「5つの基本ケアの徹底」5項目を独自に作り上げ身体拘束適正化に係る指針に示すなど、人権を守る揺るぎない姿勢が感じられ家族からの評価も高い。本人の望む自由な暮らしの実現と残存機能を最大限生かせるよう必要な援助を提供しており、地域密着型サービスにおけるエキスパート的存在の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|--------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を、玄関や各ユニットに掲げ、申し送りやミーティング時など、業務中意識しながら、サービス提供に努めている。 | 地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ基本理念を標榜している。様々な事例の中でサービスが理念に沿っているか否かを立ち戻り確認している。新人職員へは代表者が説明し、管理者が意識づけや指導を行っている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議を通し、町内会との情報交換等をおこなっている。また、地域の鍵預かり事業にも、協力体制をとっている。 | 町内会とは双方の夏祭りなどで協力し合い、複数の幼稚園との相互交流やスコップ三味線・フラダンスなどのボランティアが訪れている。小学校で認知症理解に向けた寸劇等の活動を行っている。RUN伴2019や地域フェスティバルに参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の小学生を対象とした、認知症キッズサポーター養成講座に参加し、講話や寸劇を通し認知症の理解や支援方法を広めている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、情報交換や意見交換をしている。そこで頂いたアドバイス等は、スタッフミーティングの中で取り上げ、日々のサービスに活かしている。 | 今年4月と6月は事業所職員のみで開催し、新型コロナウイルス感染症発生時の対応マニュアルや面会等について協議を行っている。この1年では看取り支援、災害時の協力体制等について話し合っている。家族への議事録の送付を適宜進めている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当者や包括支援センターと連携し、サービスの導入や取り組み等について、協力関係を築いている。 | 年1回の市の集団指導では、加算新設での注意点や実地指導で確認された問題点などの情報を得ている。苫小牧市GH連絡会に参加し、勉強会や情報交換を行っている。市の委託を受け認知症キッズサポーター養成講座に協力し、地域の鍵預かり事業では高齢独居者の支援に尽力している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修会等に参加し、日々のサービスの中でスタッフ間情報交換や意見交換をし、玄関の施錠、行動の制止等を含め身体拘束に関し正しく理解できる様取り組んでいる。 | 「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、3か月に1度「身体拘束廃止推進委員会」を開催している。これらに係る内部研修を年2回実施している。職員で話し合い作り上げた「5つの基本ケアの徹底」5項目を指針に明示しており、意識化が図られている。リスクに関する家族への伝達はその都度行っている。夜間のみ玄関を施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会への参加、ホーム内での研修を通し、虐待について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされることがない様取り組んでいる。スタッフ間、虐待について意見を言える環境を作っている。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度を利用している入居者様おり、学ぶ機会も多く、情報の共有に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の見学時や契約の際、入居後の改定等について、十分な説明を行い、不安や疑問点を都度解決し、理解・納得を得ている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様の面会時に、近況報告を行い、ご家族様とのコミュニケーションを大事にし、意見・要望を言いやすい関係作りに努めている。 | 利用者から1人での散歩、おやつの自己管理、通院したい病院などの要望があり、内容ごとに家族や地域、市等の関係機関と相談や連携を図り対応している。家族からの要望にもその都度応え、事業所便りの他、毎月個別に利用者の様子を手紙で伝えている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年1回の個別懇談や毎月のミーティング時に、意見交換を行っている。また、提案が出された時は、十分話し合い反映させている。 | 年1回代表者が職員との個別面談を実施し、就業に関する事などを話し合い調整している。職員から夏祭り開催可否や会議のあり方について提案されている。また希望休制度を設け働きやすい環境を整えている。同法人他事業所間やユニット間の異動を控え利用者や職員の馴染みの関係に配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。また、スキルアップが出来る様、資格取得の為に休暇や手当等の制度を設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に積極的に参加できる様努めている。ホーム内での研修も随時行っている。また、資格取得の為に研修にも参加しやすい様取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研究会や勉強会に参加することで、同業者との交流を図っている。グループワークを通し、意見交換をすることで、サービスの質の向上に繋がる様取り組んでいる。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|-----------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に、ご本人様と面談し困っていること不安に思っていること、要望などを聞き取り、安心して頂ける関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に、ご家族様と面談し困っていることや不安に思っていること、要望などを聞き取り関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居者様とご家族様が、必要としているサービスを見極め、その都度話し合いを持ちながら対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する側、される側という関係ではなく同じ思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々、入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換をし情報の共有をし、共に支えるという関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 必要に応じて、電話や手紙の取次や馴染みの場所への同行などの支援に努めている。 | 利用開始前「銭湯の帰りに喫茶店でビールを一杯」が馴染みの習慣としていた方では、希望に沿いキーパーソンの協力で継続している。地震後に住んでいた自宅を案じ職員と一緒に片付けに出かけたり、年末年始の一時帰宅や家族と外食に行く方がいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りも含めて支援に努めている。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後であっても、訪ねて来てくれるご家族様もいる。また、必要な場合は、相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難な場合は、出来るだけ本人本位に検討する様努めている。 | 把握が困難な場合は家族からの情報や本人がどうかの視点に立ち、カンファレンスで検討している。アプローチを工夫し、時々レスポンスを確認するなどして意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に今までの生活歴やエピソードを、ご家族様に記入していただき、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録やコミュニケーションを通し、個々の生活リズムや身体状況等の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人やご家族様の意向もとに、モニタリングをし現状のニーズに合った介護計画を作成している。 | 毎月利用者カンファレンスを実施し、課題や気づきを詳細にアセスメントしている。本人の希望、家族等の意見を反映させ、望ましい生活を支援する生活援助計画を立てている。現状に即した計画と支援により食欲が増し食事摂取が安定に向かうなどの事例がある。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録やアセスメントシートを見直し、申し送りや会議等を活用し、情報の共有をしながら、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人やご家族様のその時のニーズに合わせた、柔軟な対応が出来るよう、外部サービスを利用するなどの取り組みを行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のお祭りや近隣幼稚園との交流、イベントなどの参加で、楽しく暮らせるよう支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の往診、必要に応じての外来受診を行っている。緊急時の連絡体制を整え、適切医療を受けられ様支援している。 | 内科、歯科、皮膚科の往診と訪問看護の態勢を整えている。その他診療科目は職員が通院支援を行い、案件により通院同行支援事業者と連携している。医療内容は「受診記録」に時系列で個別に記録している。職員の口腔ケア支援により風邪予防に至っている。 | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと契約をしており、週1回の情報交換、情報の共有をし、24時間連絡可能な体制を作り、適切な看護が受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には安心して治療が受けられる様、また、早期退院ができる様、医療機関との情報交換、情報の共有相談に努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、看取り介護についての説明を行っています。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医、訪問看護ステーション、ご家族と連携し全員で支援に取り組んでいます。 | 「入居者の急病や怪我、重度化し看取りの必要が生じた場合などの対応における指針」を契約時に説明し、状況発生時に関係者が医師の説明等を受け「看取り介護についての同意書」を交わしている。家族からは「ここが家なのでお願いしたい」と終末を託されており開設時より14名、今年も3名の看取りに尽力している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故に備えて、随時話し合い、確認を行い、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様努めている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行い、避難方法等の確認を行っている。災害を想定しての、備蓄品の保管もしている。今後は、災害時の避難訓練を行っていく予定。 | 年2回日中・夜間を想定した火災避難訓練を実施し、昨年12月は消防署の協力を得ている。避難場所として近隣医療機関と連携している。胆振東部地震の際での家族からの積極的な協力や地域防災関係者からのアドバイスが得られている。災害備蓄品の見直しを行い補充保管に努めている。 | 2階への搬送訓練を含め、自然災害発生時における対策や訓練について、更に検討を行う意向であるので、その取り組みに期待したい。 |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|---|---|---|--|
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりに合わせた、丁寧な声かけをする様心がけている。特に、排せつケア等プライバシーには配慮している。 | 職員は敬語を基本に利用者により優しく話しかけている。信頼関係を構築し敬意、守秘義務及び個人情報保護の遵守している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話の中で、本人の思いや希望を聞き取り、自己決定ができる様に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活ペースを尊重し、本人の希望に添った日々を過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に訪問理容を利用し、本人の希望に添ったメニューで行っている。また、衣服等も、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレができる様支援している。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様の好みに合わせて、月に何度かバイキングや出前等で食事を楽しんでいる。 | 時折、予定の献立を変更し利用者の希望で好みの食事にしている。実演の蕎麦や握り寿司、出前や外食も利用している。毎食の準備や後片付けも積極的に参加している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量を記録し、1日を通して水分量が確保出来るよう努めている、また、必要に応じて、キザミ食やトロミを付けるなどの支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、うがいや義歯洗浄の声かけをし、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生とも連携し、本人に応じた口腔ケアを行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。必要に応じて、リハビリパンツやポータブルトイレを使用している。 | 日々の記録に時系列で排泄の状況を記入しており、羞恥心に配慮した適切なトイレ誘導をしている。失敗が続いたときは、場合によって数日ポータブルトイレを居室に置いて安心できるように配慮をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事量や水分量、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。腹部マッサージや服薬支援、乳製品や食物繊維の摂取など、予防にも取り組んでいる。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日や時間を決めず、本人の希望や体調に合わせて入浴できる支援を行っている。 | 利用者1人平均週2回の入浴は、好みの湯加減で音楽をかけたり職員と会話するなど楽しい時間となっている。シャワーキャリーも使用し安心・安全に努めている。乾燥防止のワセリンやボディクリームなどの保湿剤を塗っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活パターンや身体状況に合わせて、食後居室での臥床時間を設ける等、の支援を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師より処方された薬を、スタッフ全員が用法・用量を理解し、服薬支援を行っている。また、服薬後の体調変化にも注意を払っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前の生活歴を活かし、好みの嗜好品の購入や書道・漢字ドリルなど気分転換ができるよう支援をしている。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(1階) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者様の希望に添って、日常の買い物など外出支援を行っている。また、季節に合わせての外出支援をしている。 | 天気の良い日は近隣を散歩している。行事的な外出では、港まつり、エコリン村、キノコ王国、釣り堀、錦岡公園の菖蒲見学など多彩な場所へ出かけ、銭湯や喫茶店、買い物等の個別の外出も多い。町内会の夏祭りにも開催場所に応じて参加している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望に添って、買い物や外食等に同行し、お金を使うことの支援をしている。ご家族様と相談し、自分でお金の管理をしている入居者様の支援もっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に添って、手紙や年賀状の発送、電話の取次ぎ等の支援をしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには、入居者様が集まりやすい様、絵や花・行事の写真等を飾り、季節の移り変わりを感じられる様な空間作りをしている。また、季節に合わせて、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気をつけ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 広く明るい居間にソファを置いて季節の飾りの他、利用者作成の折り紙細工を飾り、脳トレや将棋など個別に楽しめる時間を過ごしている。冬季間の乾燥防止に加湿器の他にも濡れたタオルで湿度が一定になるよう配慮している。利用者本位で安心して過ごせる場所になっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 新聞やテレビを見たり、思い思いに過ごせるよう支援している。また、入居者様同士が楽しく会話できる様、スタッフも一緒に過ごす時間を作るなど工夫している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から使用していた馴染みも物を配置したり、ご家族の写真等を飾るなどしている。また、動きやすい環境を作るなど、居心地のよい居室作りをしている。 | 購読している新聞を読んだり、自分の携帯電話で家族と話したり、植木鉢を置いて水やりをしている。仏壇、写真、カレンダーを飾り、化粧品など自分の好きなものに囲まれて居心地よく暮らしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に快適に過ごせるよう、段差をなくし、必要な場所には手すりを付けるなど、入居者様が自立して生活が送れる様、工夫している。 | | |

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0193600046 | | |
| 法人名 | 株式会社 彩寿 | | |
| 事業所名 | グループホーム彩寿 2階 | | |
| 所在地 | 苫小牧市桜木町2丁目2番20号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年2月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年7月28日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600046-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F |
| 訪問調査日 | 令和2年7月6日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気を大切にし、入居者様やご家族様が安心して過ごせる様に、スタッフが楽しく仕事が出来る様子を目標に掲げ、会話や笑顔の絶えない家作りを目指しています。入居者様、スタッフが共に喜んだり、悲しんだり家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護師との連携により看取り介護も、積極的に取り組んでいます。近隣の幼稚園や小学校、ボランティアとの交流を通し、今後も地域との繋がりを大切にし、入居者様やご家族に安心と信頼をして頂ける様な家作りを目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念に基づき、利用者様の尊厳を尊重し、ご家族様への安心と信頼の構築、地域と共に進める様日々実践につなげている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議を通し、町内会との情報交換等をおこなっている。また、地域の鍵預かり事業にも、協力体制をとっている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の小学生を対象とした、認知症キッズサポーター養成講座に参加し、講話や寸劇を通し認知症の理解や支援方法を広めている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、情報交換や意見交換をしている。そこで頂いたアドバイス等は、スタッフミーティングの中で取り上げ、日々のサービスに活かしている。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当者や包括支援センターと連携し、サービスの導入や取り組み等について、協力関係を築いている。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修会等に参加し、日々のサービスの中でスタッフ間情報交換や意見交換をし、玄関の施錠、行動の制止等を含め身体拘束に関し正しく理解できる様取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会への参加、ホーム内での研修を通し、虐待について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされることがない様取り組んでいる。スタッフ間、虐待について意見を言える環境を作っている。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度を利用している入居者様おり、学ぶ機会も多く、情報の共有に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の見学時や契約の際、入居後の改定等について、十分な説明を行い、不安や疑問点を都度解決し、理解・納得を得ている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様の面会時に、近況報告を行い、ご家族様とのコミュニケーションを大事にし、意見・要望を言しやすい関係作りに努めている。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年1回の個別懇談や毎月のミーティング時に、意見交換を行っている。また、提案が出された時は、十分話し合い反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境整備に努めている。また、スキルアップが出来る様、資格取得の為に休暇や手当等の制度を設けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に積極的に参加できる様努めている。ホーム内での研修も随時行っている。また、資格取得の為に研修にも参加しやすい様取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研究会や勉強会に参加することで、同業者との交流を図っている。グループワークを通し、意見交換をすることで、サービスの質の向上に繋がる様取り組んでいる。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に、ご本人様と面談し困っていること不安に思っていること、要望などを聞き取り、安心して頂ける関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に、ご家族様と面談し困っていることや不安に思っていること、要望などを聞き取り関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居者様とご家族様が、必要としているサービスを見極め、その都度話し合いを持ちながら対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する側、される側という関係ではなく同じ思いで、暮らしを共にする家族という関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々、入居者様の状態を把握し、ご家族様と情報交換をし情報の共有をし、共に支えるという関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族様の協力を得ながら、馴染みの場所への外出支援に努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様それぞれの性格、生活習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう空間作りも含めて支援に努めている。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後であっても、訪ねて来てくれるご家族様もいる。また、必要な場合は、相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や行動の変化をスタッフ間で共有し、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難な場合は、出来るだけ本人本位に検討する様努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | スタッフ全員で、アセスメントシート等の情報を共有し、入居前の暮らしの把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録やコミュニケーションを通し、個々の生活リズムや身体状況等の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人やご家族様の意向もとに、モニタリングをし現状のニーズに合った介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録やアセスメントシートを見直し、申し送りや会議等を活用し、情報の共有をしながら、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人やご家族様のその時のニーズに合わせた、柔軟な対応が出来るよう、外部サービスを利用するなどの取り組みを行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のお祭りや近隣幼稚園との交流、イベントなどの参加で、楽しく暮らせるよう支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の往診、必要に応じての外来受診を行っている。緊急時の連絡体制を整え、適切医療を受けられ様支援している。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと契約をしており、週1回の情報交換、情報の共有をし、24時間連絡可能な体制を作り、適切な看護が受けられるよう支援している。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には安心して治療が受けられる様、また、早期退院ができる様、医療機関との情報交換、情報の共有相談に努めている。 | | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、看取り介護についての説明を行っています。実際に看取り介護の状態になった時は、かかりつけ医、訪問看護ステーション、ご家族と連携し全員で支援に取り組んでいます。 | | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故に備えて、随時話し合い、確認を行い、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様努めている。 | | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行い、避難方法等の確認を行っている。災害を想定しての、備蓄品の保管もしている。今後は、災害時の避難訓練を行っていく予定。 | | | |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|--|---|--|--|
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりに合わせた、丁寧な声かけをする様心がけている。特に、排せつケア等プライバシーには配慮している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話の中で、本人の思いや希望を聞き取り、自己決定ができる様に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活ペースを尊重し、本人の希望に添った日々を過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に訪問理容を利用し、本人の希望に添ったメニューで行っている。また、衣服等も、本人の意思を尊重し、その人らしいオシャレができる様支援している。 | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の好みに合わせて、月に何度かバイキングや出前等で食事を楽しんでいる。スタッフと一緒に、食事の準備や後片付けをする入居者様もいて、食事全般を楽しみにしている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量を記録し、1日を通して水分量が確保出来るよう努めている、また、必要に応じて、キザミ食やトロミを付けるなどの支援をしている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、うがいや義歯洗浄の声かけをし、口腔内が清潔に保てるよう支援している。訪問歯科の先生とも連携し、本人に応じた口腔ケアを行っている。 | | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄を基本とし支援を行っている。個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。必要に応じて、リハビリパンツやポータブルトイレを使用している。 | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事量や水分量、個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。腹部マッサージや服薬支援、乳製品や食物繊維の摂取など、予防にも取り組んでいる。 | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日や時間を決めず、本人の希望や体調に合わせて入浴できる支援を行っている。入浴が楽しめる様、浴室の環境整備にも努めている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活パターンや身体状況に合わせて、食後居室での臥床時間を設ける等、の支援を行っている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師より処方された薬を、スタッフ全員が用法・用量を理解し、服薬支援を行っている。また、服薬後の体調変化にも注意を払っている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前の生活歴を活かし、好みの嗜好品の購入や茶碗洗い、洗濯物のたたみなど役割を持てるような支援をしている。 | | | |

グループホーム彩寿

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(2階) | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者様の希望に添って、日常の買い物など外出支援を行っている。また、季節に合わせての外出支援をしている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望に添って、買い物や外食等に同行し、お金を使うことの支援をしている。ご家族様と相談し、自分でお金の管理をしている入居者様の支援もやっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に添って、手紙や年賀状の発送、電話の取次ぎ等の支援をしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには、入居者様が集まりやすい様、絵や花・行事の写真等を飾り、季節の移り変わりを感じられる様な空間作りをしている。また、季節に合わせて、扇風機や加湿器などで、温度・湿度に気をつけ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 新聞やテレビを見たり、思い思いに過ごせるよう支援している。また、入居者様同士が楽しく会話できる様、スタッフと一緒に過ごす時間を作るなどの工夫をしている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から使用していた馴染みも物を配置したり、ご家族の写真等を飾るなどしている。また、動きやすい環境を作るなど、居心地のよい居室作りをしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に快適に過ごせるよう、段差をなくし、必要な場所には手すりを付けるなど、入居者様が自立して生活が送れる様、工夫している。 | | |

目標達成計画

事業所名 グループホーム彩寿

作成日：令和 2年 7月 28日

市町村受理日：令和 2年 7月 28日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--|-------------------------|--|------------|
| 1 | 35 | 2階への搬送訓練を含め、自然災害発生における対策や訓練について、更に検討を行う意向であるので、その取り組みに期待したい。 | 災害時の対策や搬送訓練の計画を立て、実施する。 | 災害時の対策として、2階への搬送訓練の計画を立て、近隣住民の協力を得て実施していく。 | 1年 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。